

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

障がいのある方、とりわけ、知的な障がいのある方とそのご家族にとって、「親なき後」は、普遍的で切実な問題である。しかし、神崎郡内においては、「親なき後」の受け皿となりうる障がい者グループホームが1か所（定員4名）しかない。障がいの程度が軽度、中度であったとしても一人暮らしをすることが難しい方が多い中で、その数が不足している。障がいのある方の親御様が我が子の行く末を案じることなく安心して最期を迎えられ、そして何より、障がいのある方が地域社会の一員として最期まで尊厳ある暮らしを営むための、「終の棲家」としての障がい者グループホームの実現が切に望まれている。

そのような、障がい者福祉を取り巻く地域社会の実情を踏まえ、当法人では次に掲げる事項を目的として、事業を実施した。

- ・「親なき後」を見据えた、障がいのある方のための「終の棲家」の実現
- ・障がいのある方の社会的、精神的自立（自律）、自分らしい生き生きとした地域生活の実現
- ・障がいのある方の親御様（ご家族）のレスパイトケアの実現
- ・地域住民の障がいに対する適切な理解と、障がいのある方に対する人間的な理解及び交流の促進
- ・地域で生活する障がいのある方を含む、福祉・医療・介護の連携体制が整備された「地域包括ケアシステム」の構築
- ・障がいのある方を含む、住民の誰もが相互に人格と個性を尊重し合える、住みよい「地域共生社会」の実現

(2) 実施内容

《障がい者グループホームの建築》

- ・共同生活住居名：グループホームふれんどA棟 ・定員：7名
- ・構造：木造平屋建て1棟 ・敷地面積：576.18㎡ ・延床面積：313.80㎡
- ・付帯設備：暖冷房設備 設置面積 248.50㎡
スプリンクラー設備 設置面積 276.65㎡
- ・初度調弁：カラーテレビ 1台・冷蔵庫 1台・洗濯機 2台・空気清浄機 3台



<建物の外観（東面）>



<正面玄関の標識表示>



<玄関ホール>

<居室>



<居間兼食堂>



<洗濯機（補助対象初度調弁）>



<竣工式>

2 予想される事業実施効果

短期的には、障がいのある方がご家族の元を離れ、地域社会の一員として、社会的、精神的な自立（自律）を目指し、自分らしく生き生きとした毎日を送ることができる障がい者グループホーム及び地域社会の実現が、中期的には、障がいに対する地域住民の適切な理解が浸透し、安心、安全で住民の誰もが相互に人格と個性を尊重し合える住みよい地域共生社会の実現が、そして長期的には、高齢化や障がいの重度化が進んでも障がいのある方が最期まで暮らし続けることのできる「終の棲家」としての障がい者グループホーム及び地域包括ケアシステムが構築された社会の実現が期待される。

3 補助事業に係わる成果物

本事業に係わる印刷物等

グループホームふれんどA棟の完成チラシ